

■ はじめに

皆さんはリハビリテーションに対して、どのようなイメージがありますか？

例えば、臨床現場で遭遇しやすい椎間板ヘルニアの術後に、立位訓練や歩行訓練を実施する。他には、前十字靭帯断裂の術後に荷重訓練や筋力強化をしたりと、術後の機能回復のために実践するというイメージを持つ方が多いのではないのでしょうか。

愛玩動物看護師としてそれらの実践は大切ですが、リハビリテーションについて学ぶと包括的で幅広い領域であることが理解できます。

そして予防の観点から見ても、私たちが動物と飼い主様に貢献できることはたくさんあります。

本稿では、日常のリハビリテーションやケア、環境設定、予防的な運動など、予防の視点から愛玩動物看護師が飼い主様へアドバイスできるような実践的な内容を解説していきます。

※ リハビリテーションは獣医療行為であり、獣医師の診断・治療のもとで行うのが原則です。

※ 今回解説するのは、特定の疾患に罹患していない犬に対して行う予防的なリハビリテーション、ケアの内容です。

※ 実際の内容と異なる場合があります

■ リハビリテーションとは

まず、リハビリテーションの語源や定義について知っておきましょう。

リハビリテーションの実施中は方法や手段に集中し、つい目的を忘れてしまいがちです。そのため、たびたび語源や定義に立ち返ることが大切です。

リハビリテーションの語源は、ラテン語の「Rehabilis」といわれています。

これは「再び」を意味する「Re」と「適する」を意味する「Habilis」が組み合わさったもので「再び適する状態になる」ということを表します。



執筆者



Yabuno Tomoko

藪野 公子

愛玩動物看護師 / 動物理学療法助手 / 産業カウンセラー

VNsupport代表

一般社団法人どうぶつ予防医療協会理事

■ 認定資格

VT CCRP (テネシー大学公式認定 Certified Canine Rehabilitation Practitioner)

CCRA (Canine Rehabilitation Institute CRI認定プログラム) 取得